

経歴及び著述等目録

田野村 忠温

2024年

学歴

- 1977年4月 京都大学理学部入学
- 1980年4月 京都大学文学部に転学部（言語学専攻）
- 1982年3月 京都大学文学部卒業
- 1982年4月 京都大学大学院文学研究科修士課程入学（言語学専攻）
- 1984年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 1984年4月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程入学（言語学専攻）
- 1987年3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程学修退学

職歴

（常勤職）

- 1988年4月 奈良大学文学部専任講師
- 1991年4月 大阪外国語大学外国語学部専任講師
- 1993年1月 大阪外国語大学外国語学部助教授
- 2005年3月 大阪外国語大学外国語学部教授
- 2007年4月 大阪外国語大学外国語学部国際文化学科長
- 2007年10月 大阪大学大学院文学研究科教授（大学の統合に伴う所属変更）
- 2022年4月 大阪大学大学院人文学研究科教授（大学院の統合に伴う所属変更）

（非常勤講師）

愛知教育大学、愛媛大学法文学部、大阪大学文学部・大学院文学研究科、京都大学文学部・大学院文学研究科、近畿大学、神戸市外国語大学、四天王寺国際仏教大学・同短期大学部、東京外国語大学、同志社女子大学短期大学部、同志社大学文化情報学部、武庫川女子大学・同短期大学部、龍谷大学
 北京日本学術研究センター派遣専家（2002年9～10月、2003年2～7月、2009年3～4月）

（研究員）

関西大学東西学術研究所委嘱研究員、国立国語研究所共同研究プロジェクト共同研究者、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員

（各種委員）

国立国語研究所外部評価委員会委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、日本学術振興会国際事業委員会書面審査員、日本学術振興会卓越研究員候補者選考委員会書面審査員、日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員、文部科学省科学技術・学術審議会専門委員、文部科学省新学術領域研究（研究課題提案型）書面審査委員

著書

- (1) 『現代日本語の文法 I — 「のだ」の意味と用法—』(和泉書院、1990年1月)
- (2) 『Perlプログラミング—テキストデータ処理の基礎—』(大阪外国語大学学術研究双書31、大阪外国語大学、2003年3月)
- (3) 田野村忠温・服部匡・杉本武・石井正彦『コーパス日本語学ガイドブック』(文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「日本語コーパス」日本語学班、2007年9月)
- (4) 田野村忠温・服部匡・杉本武・石井正彦『コーパス日本語学の新展開』(文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「日本語コーパス」日本語学班、2010年10月)
- (5) 『Rubyによるテキストデータ処理』(荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究4』、単独執筆、明治書院、2012年4月)
- (6) 内田慶市・田野村忠温編著『『華英通語』四種—解題と影印—』(関西大学出版部、2020年3月)
- (7) 『英語東漸とその周辺』(和泉書院、2023年6月)
- (8) 『近代日中新語の諸相』(和泉書院、2023年7月)

論文

- (1) ‘On the ambiguity of contradictory expressions’ (『言語学研究』第3号、1~22頁、京都大学言語学研究会、1984年12月)
- (2) ‘On the ambiguity of tautological expressions’ (*Proceedings of the Ninth Annual Meeting of the Kansai Linguistic Society*, pp.37-45, 1985)
- (3) 「命題指定の『の』の用法と機能—諸説の検討—」(『言語学研究』第5号、85~120頁、京都大学言語学研究会、1986年12月)
- (4) 「否定疑問文小考」(『国語学』第152集、16~30頁、1988年3月)
- (5) 『部屋を掃除する』と『部屋の掃除をする』(『日本語学』第7巻第11号、70~80頁、1988年11月)
- (6) 「不適条件表現に関する覚書—現代日本語の二種の文法現象をめぐって—」(『奈良大学紀要』第17号、164~176頁、1989年3月)
- (7) 「現代日本語の数詞と助数詞—形態の整理と実態調査—」(『奈良大学紀要』第18号、194~216頁、1990年3月)
- (8) 「文における判断をめぐって」(崎山理・佐藤昭裕編『アジアの諸言語と一般言語学』、785~795頁、三省堂、1990年9月)
- (9) 「疑問文における肯定と否定」(『国語学』第164集、1~14頁、1991年3月)
- (10) 『も』の一用法についての覚書—『君もしつこいな』という言い方の位置付け—(『日本語学』第10巻第9号、80~86頁、1991年9月)

- (11) 『らしい』と『ようだ』の意味の相違について」(『言語学研究』第10号、62～78頁、京都大学言語学研究会、1991年12月)
- (12) 『～だか』という言い方」(『大阪外国語大学論集』第6号、123～133頁、1991年12月)
- (13) 「現代語における予想の『そうだ』の意味について—『ようだ』との対比を含めて—」(国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究 十二』、1～20頁、和泉書院、1992年7月)
- (14) 「〈研究手帳〉『さんがい (三階)』と『よんかい (四階)』」(『いずみ通信』no.16、10～11頁、1992年8月)
- (15) 「コンピュータによる連番の付け直し—言語学文書作成支援システム—」(『大阪外国語大学論集』第7号、69～78頁、1992年9月)
- (16) 「〔特集 「の」の言語学〕『のだ』の機能」(『日本語学』第12巻第11号、34～42頁、1993年10月)
- (17) 「終助詞の文法—江戸語資料に見る終助詞の体系性—」(『日本語学』第13巻第4号、94～112頁、1994年4月)
- (18) 「丁寧体の述語否定形の選択に関する計量的調査—『～ません』と『～ないです』—」(『大阪外国語大学論集』第11号、51～66頁、1994年8月) [徐一平・曹大峰主編『中日対訳語料庫的研製と応用研究論文集』(北京：外語教学与研究出版社、2002年9月) に再録]
- (19) 「〔特集 日本語研究と日本語情報処理〕日本語研究の限界」(『日本語学』第14巻第4号、80～88頁、1995年4月)
- (20) 「意味」(『日本語学』第14巻第8号、1995年7月臨時増刊号『パソコンを使う日本語研究』、53～62頁、1995年7月)
- (21) 「〔特集 メタ言語〕メタ言語とは何か」(『日本語学』第15巻第11号、11～18頁、1996年10月)
- (22) 「〔特集 高校国語「現代語」を見直す〕各社『現代語』教科書を比較・点検する」(『日本語学』第16巻第5号、22～33頁、1997年5月)
- (23) 「各社『現代語』教科書を比較・点検する (続)」(『日本語学』第16巻第7号、68～74頁、1997年6月)
- (24) 「〈短信〉日本語の話者数順位について—日本語は世界第六位の言語か?—」(『国語学』第189集、37～41頁、1997年6月)
- (25) 「外来語アクセントにおける原語の発音の関与について—4 モーラ以下の語を中心に—」(『日本語科学』第5号、67～87頁、1999年4月)
- (26) 「意味分析と電子資料—副詞『よほど』の分析を例に—」(山田進・菊地康人・榎山洋介編『日本語 意味と文法の風景—国広哲弥教授古稀記念論文集—』、211～224頁、ひつじ書房、2000年2月)
- (27) 「用例に基づく日本語研究—コーパス言語学—」(『日本語学』第19巻第5号、2000年4月)

臨時増刊号『新・文法用語入門』、192～201頁、2000年4月)

- (28) 「〔特集 「用例」を探す〕電子メディアで用例を探す—インターネットの場合—」(『日本語学』第19巻第6号、25～34頁、2000年5月)
- (29) 「サ変動詞の活用のゆれについて—電子資料に基づく分析—」(『日本語科学』第9号、9～31頁、2001年4月) [中国日語教学研究会編『複合型高級外語人材の培養』(大連:大連理工大学出版社、2000年11月)に主要部分を再録]
- (30) 「辞と複合辞」(玉村文郎編『日本語学と言語学』、49～60頁、明治書院、2002年1月)
- (31) 「形容動詞連体形における『な／の』選択の一要因—『有名な』と『無名の』—」(『計量国語学』第23巻第4号、207～213頁、2002年3月)
- (32) 「コーパスによる文法の研究」(『日本語学』第22巻第5号、2003年4月臨時増刊号『コーパス言語学』、174～186頁、2003年4月)
- (33) 「〔特集 日本語の輸出〕中国の日本語」(『日本語学』第22巻第12号、6～15頁、2003年11月)
- (34) 「コーパス言語学の可能性と限界」(『日本学研究』第13期、32～47頁、北京日本学研究中心、2003年12月)
- (35) 「現代語のモダリティ」(尾上圭介編『朝倉日本語講座6 文法II』、215～234頁、朝倉書店、2004年6月)
- (36) 「〔特集 〈周辺〉〈例外〉の魅力—そこから見えてくるもの—〕周辺性・例外性と言語資料の性格—その相関の考察—」(『日本語文法』第4巻第2号、24～37頁、2004年9月)
- (37) 「コピュラ再考」(藤田保幸・山崎誠編『複合辞研究の現在』、249～270頁、和泉書院、2006年11月)
- (38) 丸山岳彦・田野村忠温「〔特集 コーパス日本語学の射程〕コーパス日本語学の射程」(特集巻頭論文)(『日本語科学』第22号、5～11頁、2007年10月)
- (39) 「日本語研究の観点からのサーチエンジンの比較評価—Yahoo!とGoogleの比較を中心に—」(『計量国語学』第26巻第5号、147～157頁、2008年6月)
- (40) 「複合辞の本性について—その構成と単位性—」(児玉一宏・小山哲春編『言葉と認知のメカニズム—山梨正明教授還暦記念論文集—』、489～497頁、ひつじ書房、2008年9月)
- (41) 「大規模な電子資料に見る現代日本語の動態」(『待兼山論叢』第42号文化動態論篇、55～76頁、大阪大学大学院文学研究科、2008年12月)
- (42) 「〔特集 日本語研究とコーパス〕コーパスと文法研究」(『国文学 解釈と鑑賞』第74巻第1号、79～87頁、2009年1月)
- (43) 「コーパスからのコロケーション情報抽出—分析手法の検討とコロケーション辞典項目の試作—」(『阪大日本語研究』21、21～41頁、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座、2009年2月)

- (44) 「日本語研究の観点からのサーチエンジンの評価・統一検索ヒット件数の時間変動のその後とWeb文書量の推計の修正一」(『計量国語学』第26巻第8号、290～294頁、2009年3月)
- (45) 「文法の中核と周辺一コーパスが観察可能にする文法の一面一」(田野村忠温・服部匡・杉本武・石井正彦『コーパスを用いた日本語研究の精密化と新しい研究領域・手法の開発Ⅲ』、154～165頁、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「日本語コーパス」日本語学班、2009年3月)
- (46) 「サ変動詞の活用のゆれについて・統一大規模な電子資料の利用による分析の精密化一」(『日本語科学』第25号、91～103頁、2009年4月)
- (47) 「〔特集 「日本語コーパス」〕コーパスを用いた日本語研究の精密化と新しい研究領域・手法の開発」(『人工知能学会誌』第24巻第5号、647～655頁、2009年9月)
- (48) 「〔特集 コーパスを活用した言語研究(1)〕日本語コーパスとコロケーション一辞書記述への応用の可能性一」(『言語研究』第138号、1～23頁、2010年9月)
- (49) ‘Retrieving collocational information from Japanese corpora: Its methods and the notion of “circumcollocate”’ (Peter Grzybek, Emmerich Kelih and Ján Mačutek (eds.) *Text and Language: Structures · Functions · Interrelations*, Wien: Praesens Verlag, pp.213-222, 2010)
- (50) ‘The concept of “circumcollocate” and its significance for lexicography: A discussion with particular reference to the Japanese language’ (Isabel Moskowich-Spiegel Fandiño et al.(eds.) *Language Windowing through Corpora* (Conference proceedings in electronic format), A Coruña, Spain: Universidade da Coruña, pp.873-879, 2010)
- (51) 「テキストエディタの応用」(荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究3 アプリケーションソフトの応用』、7～97頁、明治書院、2011年10月)
- (52) 「コーパス言語学の新たな展開」(『日本語学』第30巻第14号、2011年11月臨時増刊号『言語研究の新たな展開』、95～104頁、2011年11月)
- (53) 「コーパス言語学と語彙」(斎藤倫明・石井正彦編『これからの語彙論』、149～161頁、ひつじ書房、2011年12月)
- (54) 「日本語研究の観点から見た昨今のサーチエンジン事情—GoogleとYahoo!の技術提携の結果—」(『計量国語学』第28巻第5号、186～193頁、2012年6月)
- (55) 「日本語のコロケーション」(堀正広編『これからのコロケーション研究』、193～226頁、ひつじ書房、2012年12月)
- (56) 「BCCWJに収められた新種の言語資料の特性について—データ重複の諸相とコーパス使用上の注意点—」(『待兼山論叢』第46号文化動態論篇、59～82頁、大阪大学大学院文学研究科、2012年12月)
- (57) 「『代わり』の意味分析」(藤田保幸編『形式語研究論集』、61～85頁、和泉書院、2013年

10月)

- (58) ‘A corpus-based analysis of some time-related aspects of contemporary Japanese’ (Giuliana Diani, Julia Bamford and Silvia Cavalieri(eds.) *Variation and Change in Spoken and Written Discourse: Perspectives from Corpus Linguistics*, Amsterdam: John Benjamins, pp.255-267, 2013)
- (59) 「BCCWJの資料的特性—コーパス理解の重要性—」(田野村忠温編『講座日本語コーパス 6 コーパスと日本語学』、119～151頁、朝倉書店、2014年12月)
- (60) 「日本語研究とインターネット」(田野村忠温編『講座日本語コーパス 6 コーパスと日本語学』、153～162頁、朝倉書店、2014年12月)
- (61) 「意識地名『牛津』『劍橋』の発生と消長」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第55巻、81～137頁、2015年3月)[沈国威・内田慶市編著『東アジア言語接触の研究』(関西大学出版部、2016年2月)に加筆版を再録]
- (62) 「意識地名“牛津”“劍橋”的產生和興衰—近代中日語言中詞匯交流的一面」(王曉雲・趙平訳)(趙平・劉利音主編『跨文化交際与区域經濟發展論』、21～29頁、北京：光明日報出版社、2015年8月)[(61)の抄訳]
- (63) 「中国語の外來名表記に関する覚書—地名Amsterdamの意識をめぐる議論の検討ほか—」(『待兼山論叢』第49号文化動態論篇、9～34頁、大阪大学大学院文学研究科、2015年12月)
- (64) 「『科学』の語史—漸次的・段階的変貌と普及の様相—」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第56巻、123～181頁、2016年3月)
- (65) 「[特集 WWWコーパスを用いた研究] Webコーパスの概念と種類、利用価値—語史研究の情報源としてのWebコーパス—」(『計量国語学』第30巻第6号、326～343頁、2016年9月)
- (66) 「真珠湾の日中名称小史」(『待兼山論叢』第50号文化動態論篇、29～55頁、大阪大学大学院文学研究科、2016年12月)
- (67) 「近現代語『可能』の成立—日中両語間の双方向的影響—」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第57巻、97～150頁、2017年3月)
- (68) 「サーチエンジンの示すヒット件数の信頼性再び—Google検索をめぐる最新状況—」(『計量国語学』第30巻第8号、499～505頁、2017年3月)
- (69) 「日本最初期英語研究書の依拠資料と編集」(『待兼山論叢』第51号文化動態論篇、21～56頁、大阪大学大学院文学研究科、2017年12月)
- (70) 「新出資料『華英通語』道光本と中国初期英語学習書の系譜—附論 福沢諭吉編訳『増訂華英通語』—」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第58巻、165～222頁、2018年3月)
- (71) 「言語名『英語』の確立」(『東アジア文化交渉研究』第11号、3～26頁、関西大学大学院

東アジア文化研究科、2018年3月)

- (72)「ダッシュ、プライム」(『数学セミナー』第57巻第8号、54～58頁、2018年8月)
- (73)「中国語を表す言語名の諸相—その多様性、淘汰と変質、用法差—」(『待兼山論叢』第52号文化動態論篇、67～102頁、大阪大学大学院文学研究科、2018年12月)
- (74)「中国初期英語学習書における英語発音の漢字表記—流音の知覚と表記—」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第59巻、221～272頁、2019年3月)
- (75)「〔特集 和製のことば・和製の文字〕和製英語—悪習との訣別—」(『日本語学』第38巻第7号、54～63頁、2019年7月)
- (76)「19世紀中国有關英語の出版物对日本人英語学習の影響：概観与福沢諭吉《増訂華英通語》的分析」(孫曉訳)(李雪涛・沈国威主編『亚洲与世界』第2輯、320～334頁、北京：社会科学文献出版社、2019年11月)[前半は書き下ろし、後半は(70)の後半の一部]
- (77)「新出資料道光本《華英通語》及中国早期英語學習書の系譜」(朱曉平訳)(沈国威・彭唏・王奕紅主編『亚洲概念史研究』第5巻、113～136頁、北京：商務印書館、2019年12月)[(70)の前半の翻訳]
- (78)「言語研究資料としての近代中国地理文献彙集の信頼性—『海国図志』と『小方壺齋輿地叢鈔』—」(『或問』第36号、1～10頁、近代東西言語文化接触研究会、2019年12月)
- (79)「福沢諭吉の『コルリ』(カレー)をめぐる」(『阪大日本語研究』32、25～35頁、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座、2020年2月)
- (80)「注音の『切』、『合』、小字」(内田慶市・田野村忠温編著『『華英通語』四種—解題と影印—』、59～67頁、関西大学出版部、2020年3月)
- (81)「日本語の呼称の歴史」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第60巻、127～183頁、2020年3月)
- (82)「『日本語学』とその関連語—意味と構造の変容—」(国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究 三十九』、1～18頁、和泉書院、2020年3月)
- (83)「ドイツ国名『独逸』成立の過程とその背景—社会的条件と日本語における音訳語の特異性—」(『東アジア文化交渉研究』第13号、61～79頁、関西大学大学院東アジア文化研究科、2020年3月)
- (84)「コーヒーを表す中国語名称の変遷」(『或問』第37号、41～60頁、近代東西言語文化接触研究会、2020年6月)
- (85)「漢語複合名詞の形成と再分析—動詞-名詞型複合名詞の二義性—」(『現代日本語研究』第12号、18～37頁、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座現代日本語学研究室、2020年12月)
- (86)「北京故宮博物院蔵『華夷訳語』丁種本第1類の分析—西洋館訳語の編纂とドイツ語の名称の問題を中心に—」(『待兼山論叢』第54号文化動態論篇、1～32頁、大阪大学大学院

文学研究科、2020年12月)

- (87) 「カレーを表す中国語名称の変遷」(『或問』第38号、15～25頁、近代東西言語文化接触研究会、2020年12月)
- (88) 『啤酒』の謎の解—この不可解な名称の成立過程—(沈国威・奥村佳代子編『内田慶市教授退職記念論文集 文化交渉と言語接触』、165～178頁、東方書店、2021年2月)
- (89) 「音訳語『珈琲』の歴史」(『阪大日本語研究』33、33～60頁、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座、2021年2月)
- (90) 『咲咕唎国訳語』の編纂者と編纂過程—中国最初の英語辞典の分析—(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第61巻、125～174頁、2021年3月)[奥村佳代子編著『周縁資料と言語接触研究』(関西大学東西学術研究所、2023年3月)に改訂版を再録]
- (91) 『化石』の成立と展開(国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究 四十』、63～80頁、和泉書院、2021年8月)
- (92) 「音訳語における口偏の機能について—口偏蔑視表示説の検討—」(『或問』第40号、13～26頁、近代東西言語文化接触研究会、2021年12月)
- (93) 『接種』の語史—一種痘関連用語の生成と消長—(『阪大日本語研究』34、27～45頁、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座、2022年2月)
- (94) 「日本語の漢語の文法的特異性とその中国語への影響—『設計』の近現代語史—」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第62巻、127～172頁、2022年3月)
- (95) 「音訳と意識—概念の体系化と歴史—」(『或問』第41号、141～160頁、近代東西言語文化接触研究会、2022年6月)
- (96) 「清代欧洲諸語言詞典、学習書籍中の注音方式—音節結構の処理」(馮玥訳)(孫伯君・麻曉芳主編『“訳音対勘”的材料与方法』、375～388頁、合肥:黄山書社、2022年9月)
- (97) 「『海録』諸版とその系譜」(『或問』第42号、1～16頁、近代東西言語文化接触研究会、2022年12月)
- (98) 『海国図志』版問題新論—従来未知の版区別の発見とその含意—(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第63巻、115～143頁、2023年2月)
- (99) 「幕末英語学習書4点の依拠資料と著作者—『英米対話捷徑』『和英商賈対話集』『商用通語』『ゑんぎりしことば』—」(『或問』第44号、19～42頁、近代東西言語文化接触研究会、2023年12月)
- (100) 「指称漢語的諸名称—其多様性、歴史と用法差異」(沙広聡訳)(張西平主編『国際漢語教育史研究』第8輯、頁範囲未定、北京:商務印書館、2024年1月)[(73)の改訂版の翻訳]
- (101) 『海国図志』版問題統考—新たな版区別の発見と諸版間の継承関係—(『大阪大学大学院人文学研究科紀要』第1巻、頁範囲未定、2024年3月)

解説、事典項目、学界展望、書評等

- (1) 「海外現代批評理論の50冊」(『シコウシテ』第21号、178～203頁、1989年9月、共著、エドワード・サピア『言語』、フェルディナンド・ドゥ・ソシュール『一般言語学講義』、ノーム・チョムスキー『文法理論の諸相』、ローマン・ヤーコブソン『一般言語学』の項を担当)
- (2) 「自然言語理解・構文解析」(『数理学』第28巻第10号、37～39頁、1990年10月)
- (3) 「参考文献の見つけ方 現代語の参考文献」(『日本語学』第13巻第6号、1994年5月臨時増刊号『ハンドブック 論文・レポートの書き方』、140～147頁、1994年5月)
- (4) 「[特集 平成6年国語国文学界の展望 (2)] 国語学—近代・現代(文法)」(『文学・語学』第149号、72～73頁、1995年12月)
- (5) 「[特集 日本語研究の将来と国語学会] 雑誌『国語学』のあり方について」(『国語学』第200集、18～20頁、2000年3月)
- (6) 「正規表現・文字コード」(荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究3 アプリケーションソフトの応用』、219～238頁、明治書院、2011年10月)
- (7) 「田野村忠温」(『日本語学』第31巻第14号、2012年11月臨時増刊号『『日本語学』の30年』、65頁、2012年11月) [『『日本語学』執筆者100人の歩み』の1項目]
- (8) 「日本語研究論文作成支援ツール—例文番号の付け直しほかに」(『日本語学』第32巻第14号、2013年11月臨時増刊号『ことば研究の道具2013』、216～223頁、2013年11月)
- (9) 「コーパス言語学」「ノダ」(日本語文法学会編『日本語文法事典』、234～235頁、478～481頁、大修館書店、2014年7月)
- (10) 「複合助詞」「文の構造」(佐藤武義・前田富祺他編『日本語大事典』、1729～1730頁、1785～1787頁、朝倉書店、2014年11月)
- (11) 「スクリプト言語」(田野村忠温編『講座日本語コーパス6 コーパスと日本語学』、163～172頁、朝倉書店、2014年12月)
- (12) 「書評 近藤泰弘・田中牧郎・小木曾智信編『コーパスと日本語史研究』」(『日本語の研究』第12巻第4号、151～158頁、2016年10月)
- (13) 「書評 エレット・エイデン、ジャン=バティスト・ミシェル著、阪本芳久訳、高安美生子解説『カルチャロミクス 文化をビッグデータで計測する』」(『社会言語科学』第20巻第1号、193～198頁、2017年9月)
- (14) 「正規表現」(日本語学会編『日本語学大辞典』、560頁、東京堂出版、2018年10月)

日本語教科書

- (1) 玉村文郎編『大学・大学院総合日本語 櫻～さくら～』(凡人社、2002年6月) [「21課 構文解析」を担当]

- (2) 李思純・斉藤里見編『新日本語2』（華中科技大学出版社、2014年9月）[読解文の執筆を担当]

編集

- (1) 荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究1 コンピュータ利用の基礎知識』（明治書院、2011年4月）
- (2) 荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究2 アプリケーションソフトの基礎』（明治書院、2011年5月）
- (3) 荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究3 アプリケーションソフトの応用』（明治書院、2011年10月）
- (4) 荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究4 Rubyによるテキストデータ処理』（明治書院、2012年4月）
- (5) 荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究5 コーパスの作成と活用』（明治書院、2011年6月）
- (6) 荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究6 コーパスとしてのウェブ』（明治書院、2011年7月）
- (7) 荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究7 ウェブによる情報収集』（明治書院、2011年4月）
- (8) 荻野綱男・田野村忠温編『講座ITと日本語研究8 質問調査法と統計処理』（明治書院、2012年6月）
- (9) 田野村忠温編『講座日本語コーパス6 コーパスと日本語学』（朝倉書店、2014年12月）
- (10) 服部匡『服部匡日本語論考選集』（和泉書院、2021年7月）

翻訳

- (1) R・グリシュマン著、山梨正明・田野村忠温訳『計算言語学—コンピュータの自然言語理解—』（サイエンス社、1989年2月）[Ralph Grishman *Computational Linguistics: An Introduction* (Cambridge: Cambridge University Press, 1986)の翻訳]

講演・研究発表（記録が残っている期間における主要なもののみ）

- (1) 「日本語の新しいとらえ方—言語学的な観点から—」（講演）（大阪府高等学校国語研究会 第一部会（現代文）講演会、1994年6月18日）
- (2) 「引用に関する若干の考察」（引用表現研究会、国立国語研究所、1995年10月28日）
- (3) 「新聞記事データベースの利用」（「コーパス言語学の現状と課題」研究会、国立国語研究所、1996年2月1日）

- (4) 「コーパスを利用した日本語研究の可能性と問題点」(講演) (「個別言語の音韻・形態・統語データの分析・記述と言語類型論」コンピュータ利用法に関する月例研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1996年2月3日)
- (5) 「日本語研究の方法論—人文系と工学系の比較—」(「日本語学と日本語情報処理」研究会、国立国語研究所、1997年2月14日)
- (6) 「意味記述の基礎に関する若干の考察」(京都大学言語学懇話会例会、京大会館、1997年7月5日)
- (7) 「世界の諸言語と日本語」(講演) (大阪YWCA、1998年4月24日)
- (8) 「電子コーパスと日本語研究」(講演) (東北大学大学院国際文化研究科、1998年11月9日)
- (9) 「複合辞と連体修飾」(複合辞研究会、国立国語研究所、1998年12月5日)
- (10) 「複合辞雑考」(複合辞研究会、国立国語研究所、1999年10月9日)
- (11) 「コピュラ文をめぐって」(文法懇話会、大手前大学、2000年5月2日)
- (12) 「サ変動詞の活用ゆれについて—電子資料に基づく分析—」(中国日語教学研究会“新世紀中国的日語教育改革”国際研討会、青島海洋大学、2000年10月29日)
- (13) 「日本語の文法と母語話者の感覚—敬語を中心に—」(講演) (広東外語外貿大学、2001年3月7日)
- (14) 「日本語の文法と母語話者の感覚—敬語を中心に—」(講演) (暨南大学、2001年3月7日)
- (15) 「電子資料と日本語研究」(華東師範大学、2001年3月10日)
- (16) 「日本語の文法と母語話者の感覚—敬語を中心に—」(講演) (中国人民解放軍外国語学院、2001年3月13日)
- (17) 「電子資料と日本語研究」(北京日本学研究中心、2001年3月16日)
- (18) 「日本語モダリティ小考」(中部日本・日本語学研究会、岐阜聖徳学園大学、2001年11月10日)
- (19) 「現代語のモダリティ私論」(講演) (文法学研究会連続公開講義、東京大学、2001年11月17日)
- (20) 「電子資料と日本語研究—新しい日本語研究法の可能性—」(講演) (湖南大学、2002年3月19日)
- (21) 「短縮語」(講演) (四川外語学院、2002年3月22日)
- (22) 「短縮語」(講演) (四川大学、2002年3月26日)
- (23) 「電子資料と日本語研究—新しい日本語研究法の可能性—」(講演) (大連外国語学院、2002年3月29日)
- (24) 「連体修飾雑考」(文法懇話会、神戸大学、2002年8月31日)
- (25) 「コーパス言語学の可能性と限界」(パネルディスカッション「コーパス言語学の新展開」、北京日本学研究中心、2002年9月29日)

- (26) 「日本語文法と母語話者の感覚」(講演)(上海交通大学、2003年4月1日)
- (27) 「日本語のモダリティー言語事象を正確に捉えるということ」(講演)(北京日本学研究中心-日本学総合講座、2003年4月17日)
- (28) 「日本語文法と母語話者の感覚」(講演)(貴州大学、2003年4月21日)
- (29) 「周辺性・例外性と言語資料の性格—その相関の考察—」(講演)(日本文学学会大会シンポジウム「〈周辺〉〈例外〉と向き合う」、青山学院大学、2003年11月29日)
- (30) ‘Electronic corpora and the study of Japanese’ (国立国語研究所国際シンポジウム「言語コーパスの構築と活用」、2006年3月7日)
- (31) 「電子資料と日本語研究」(講演)(福建師範大学、2007年3月22日)
- (32) 「複合辞の本性に関する若干の考察—その構成と単位性—」(特定領域研究「日本語コーパス」複合辞研究会、筑波大学、2007年12月16日)
- (33) 「電子資料と日本語研究」(講演)(浙江工業大学、2008年3月21日)
- (34) 「電子資料と日本語研究」(講演)(蘇州大学、2008年3月24日)
- (35) 「電子資料と日本語研究」(講演)(中国人民解放軍外国語学院、2008年3月28日)
- (36) 「コーパスからのコロケーション情報抽出の試み」(特定領域研究「日本語コーパス」辞書編集班拡大班会議、ホテルスワ(つくば市)、2008年11月23日)
- (37) 『『代わりに』再考』(特定領域研究「日本語コーパス」複合辞研究会、筑波大学、2009年2月22日)
- (38) 「文法の中核と周辺—コーパスが観察可能にする文法の一面—」(特定領域研究「日本語コーパス」公開ワークショップ、国立国語研究所、2009年3月15日)
- (39) 「コーパスと日本語研究—最近(過去3年)の動向—」(講演)(北京日本学研究中心-日本学総合講座、2009年4月9日)
- (40) 「電子資料と日本語研究—昨今の動向と事例研究—」(京都大学言語学懇話会例会、京大会館、2009年7月11日)
- (41) 「電子資料と日本語研究—昨今の動向と事例研究—」(講演)(東京外国語大学グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」講演会、2009年8月6日)
- (42) ‘Retrieving collocational information from Japanese corpora: An attempt towards the creation of a dictionary of collocations’ (Qualico 2009 (Quantitative Linguistics Conference), Karl-Franzens-Universität Graz (オーストリア)、2009年9月18日)
- (43) 「電子資料と日本語研究—昨今の動向と事例研究—」(阪大日本語学同窓会総会 阪大日本語学研究会、2009年9月26日)
- (44) ‘A corpus-based analysis of some time-related aspects of contemporary Japanese’ (CLAVIER 09 (Corpus Linguistics and Language Variation in English Research), Università degli Studi di Modena e Reggio Emilia (イタリア)、2009年11月5日)

- (45) 「コロケーションの複合的性格―‘circumcollocate’の概念と実例―」（特定領域研究「日本語コーパス」辞書編集班拡大班会議、ホテルスワ（つくば市）、2009年11月14日）
- (46) 「コーパスからのコロケーション情報の抽出・統一辞書記述への応用の可能性を前提とした考察―」（国立国語研究所共同研究プロジェクト「コーパス日本語学の創成」研究発表会、2010年2月1日）
- (47) 「コロケーションから見た複合辞一用法上の傾向を手がかりとした類義的慣用句型の分析―」（特定領域研究「日本語コーパス」複合辞研究会、筑波大学、2010年2月13日）
- (48) 「日本語コーパスとコロケーション―辞書記述への応用の可能性―」（講演）（北京日本学研究中心、2010年3月26日）
- (49) ‘The concept of “circumcollocate” and its significance for lexicography’ (CILC-10 (Congreso Internacional de Lingüística de Corpus), Universidade da Coruña (スペイン), 2010年5月14日)
- (50) 「電子資料と日本語研究―動向と展望―」（韓日コーパス言語学ワークショップ、高麗大学校、2010年10月10日）
- (51) 「コーパスと日本語文法研究」（北京日本学研究中心創立25周年記念国際シンポジウム言語分科会パネルディスカッション「コーパスと日本語学及び日本語教育学」、2010年10月17日）
- (52) 「Webコーパスとコロケーション」（日本語学会秋季大会ワークショップ「コーパス日本語学の最新展開―コーパスと方法論の多様化―」、愛知大学、2010年10月23日）
- (53) 「コーパスと日本語研究―動向と展望―」（コーパス日本語学セミナー、国立台湾大学、2010年12月4日）
- (54) 「電子資料と日本語研究―動向と展望―」（講演）（名古屋大学大学院国際開発研究科、2010年12月14日）
- (55) 「コーパスと日本語研究―動向と展望―」（講演）（香港中文大学、2011年2月25日）
- (56) 「日本語研究とインターネット」（特定領域研究「日本語コーパス」公開ワークショップ、国立国語研究所、2011年3月16日）
- (57) 「日本語コーパス―その現状と応用の可能性―」（講演）（シンガポール日本人会、2011年3月26日）
- (58) 「大規模コーパスとしてのインターネット」（ポスター発表）（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』公開記念講演会、国立国語研究所、2011年8月2～3日）
- (59) 「日本語研究とインターネット」（世界日本語教育研究大会、天津外国語大学、2011年8月21日）
- (60) 「コーパスをめぐる2、3の報告」（国立国語研究所共同研究プロジェクト「コーパス日本語学の創成」研究発表会、2011年9月3日）
- (61) 「コーパス日本語研究の最新動向」（講演）（元智大学（台湾）、2011年9月11日）

- (62) ‘Corpus linguistics: The state of the art and applications’ (講演) (国立成功大学 (台湾)、2011年9月13日)
- (63) 「コーパス日本語研究の知識と方法」(講演) (元智大学 (台湾)、2011年9月13日)
- (64) ‘Constructing a huge Web corpus: Its methods and problems’ (講演) (元智大学 (台湾)、2011年9月15日)
- (65) 「日本語のコロケーション研究—概念と課題—」(中部日本・日本語学研究会、岐阜聖徳学園大学、2011年11月5日)
- (66) ‘On “recursive collocation”: Collocation containing collocation as a subpart’ (SdP-11 (Simposio internacional: Sociología de las palabras), Universidad de Murcia (スペイン)、2011年12月2日)
- (67) 『『少納言』『中納言』検索結果活用ツール』(コーパス日本語学ワークショップ、国立国語研究所、2012年3月5日)
- (68) 「日本語の改善—その根拠の妥当性と実現可能性—」(講演) (日本学術会議言語・文学委員会科学と日本語分科会、2012年3月19日)
- (69) 「日本語研究とコーパス—その方法と可能性—」「日本語研究の基礎—資料と方法—」(講演) (華中科技大学、2012年3月22~23日)
- (70) 「BCCWJに含まれるウェブデータの特性について—データ重複の諸相とBCCWJ使用上の注意点—」(コーパス日本語学ワークショップ、国立国語研究所、2012年9月7日)
- (71) 「日本語コーパスと複文の研究—BCCWJの特性と利用の方法—」(講演) (「複文構文の意味の研究」公開シンポジウム、国立国語研究所、2012年12月15日)
- (72) 「コーパスの種類と特徴」「BCCWJの資料的的特性と利用上の注意点」「BCCWJの有効利用の方法」(講演) (元智大学 (台湾)、2013年5月11~12日)
- (73) 「日本語研究とコーパス—コーパスの概念と利用の基礎—」『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』—その概要、用法、使用上の注意—』「日本語のコロケーション—概念の考察とコーパスに基づく分析—」(講演) (華中科技大学、2013年9月13日)
- (74) 「日本語コーパスの現在—BCCWJの資料的的特性を中心に—」(講演) (中南地域日本語教育研究シンポジウム、湖南大学、2013年10月6日)
- (75) 「近代日中両語における語彙交流の一面」(講演) (「跨文化交際与区域經濟發展」国際研討会暨貴州日語教学研究会年会、貴州財經大学、2014年7月5日)
- (76) 「意識地名『牛津』『劍橋』の発生と消長」(漢字文化圏近代語研究会国際シンポジウム「東アジアにおける漢字漢語の創出と共有」、早稲田大学、2015年3月21日)
- (77) 「意識地名“牛津”、“劍橋”的產生和興衰—近代中日語言中詞匯交流的一面」(講演) (武漢大学史学博士論壇“新史料与新史学”、武漢大学、2015年7月9日)
- (78) 『『科学』の語史』(関西大学東西学術研究所研究例会 (言語交渉研究班)、2016年1月23日)

- (79) 「日中語彙交流の過去と現在」「日本語コーパスの現在」(講演)(中国海洋大学、2016年3月22～23日)
- (80) 『科学』の起源—中国起源説の検証—(漢字文化圏近代語研究会国際シンポジウム「東アジア言語接触の研究」、東華大学(中国)、2016年3月26日)
- (81) 「真珠湾の日中両語における名称について」(東アジア文化交渉学会国際学術大会、関西大学、2016年5月8日)
- (82) 「近現代語『可能』の成立—諸説の検討と新仮説—」(漢字文化圏近代語研究会国際シンポジウム「近代における翻訳と文体」、延世大学校(韓国)、2017年3月25日)
- (83) 「言語名『英語』の確立」(東アジア文化交渉学会国際学術大会、北京外国語大学、2017年5月13日)
- (84) 「新出資料『華英通語』道光本と中国初期英語教材の系譜」(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)「『華英通語』をめぐって—清末英語事始」、2017年6月16日)
- (85) ‘Etymology and history of the translated English place names 牛津 and 劍橋’(代誌による発表)
(The ‘Translation and Transformation: The Formation of New Concepts in Britain and East Asia’ workshop, The University of Oxford China Centre, 2017年9月6日)
- (86) 「言語の研究とコンピュータ、インターネット」(講演)(関西大学大学院外国語教育学研究科院生学術フォーラム、2017年12月2日)
- (87) 「日本最初期英語研究書の依拠資料と編集—『諸厄利亜言語和解』『諸厄利亜興学小筈』『諸厄利亜語林大成』—」(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)、2017年12月8日)
- (88) 「デジタル技術が拓く言語研究の新境地」(講演)(韓国日本学会国際学術大会、淑明女子大学校(韓国)、2018年2月10日)
- (89) 『華英通語』道光本とその作者、成立背景」(漢字文化圏近代語研究会国際シンポジウム「語彙史から概念史へ」、南京大学、2018年3月25日)
- (90) 「中国初期英語学習書における英語発音の漢字表記—英語の流音の知覚と表記—」(東アジア文化交渉学会国際学術大会、香港城市大学、2018年5月13日)
- (91) 「指称漢語の諸名称—它們の歴史と用法差異」(講演)(数時代化時代下の漢語全球教育史国際学術研討会暨世界漢語教育史研究学会年会、関西大学、2018年10月21日)
- (92) 「デジタル情報と言語の研究」(講演)(関西大学3研究所合同シンポジウム「デジタル時代の人文・社会科学」、2018年11月10日)
- (93) 「《華英通語》道光本—第一部由中国人編写的正統英語学習書」(“語言互動史研究—近代東西語言接觸研究學術會議2018”、北京外国語大学、2018年12月22日)
- (94) 「言語研究に対する電子資料の新たな衝撃—コーパスの先にあるもの—」(講演)(中南区日語教学研究学術研討会、湖南大学、2019年3月17日)

- (95) 「中国語における日本語の呼称の変遷」(漢字文化圏近代語研究会国際シンポジウム、北京外国語大学、2019年3月23日)
- (96) 「日本語の呼称の歴史」(講演)(日本近代語研究会春季発表大会、関西大学、2019年5月17日)
- (97) 「日中言語交流の過去と現在」(講演)(湖北第二師範学院、2019年5月30日)
- (98) 「近代日中語彙交流の研究と言語資料アーカイブ」(講演)(華中科技大学、2019年5月31日)
- (99) 「中日両国語言中的德国国名的歴史—附論“額呀馬尼雅”」(“四百年來東西方語言之互動—近代東西語言接觸研究學術會議2019”、北京外國語大學、2019年11月9日)
- (100) 『『啖咭喇國訳語』の編纂過程』(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)「言語接触研究の諸相」、2020年1月24日)
- (101) 「コーヒーを表す中国語名称の変遷—音訳語研究の新視点—」(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)、2020年7月17日)
- (102) 『『啤酒』の謎の解—この不可解な名称の成立過程—』(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)・国際シンポジウム「文化交渉と言語接触」、2021年2月19日)
- (103) 『『化石』の語史—漢語複合名詞の形成と再分析—』(オンライン発表)(東アジア文化交渉学会国際学術大会、二松学舎大学、2021年5月9日)
- (104) 「咖喱的中文名称小史」(オンライン発表)(“近代以来的西餐、洋飯書与大餐館”工作坊、復旦大学、2021年11月19日)
- (105) 「意識と音訳—概念の再考と歴史—」(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)「荒川清秀氏追悼 近代言語接触研究シンポジウム」、2022年3月13日)
- (106) 『『接種』の語史—種痘関連用語の生成と消長—』(オンライン発表)(東アジア文化交渉学会国際学術大会、啓明大学校(韓国)、2022年5月8日)
- (107) 『『海録』諸版とその系譜』(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)、2022年10月28日)
- (108) 『『海国図志』版問題新論』(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)、2022年12月17日)
- (109) 『『電視』の由来—翻訳新語研究の盲点—』(オンライン発表)(関西大学アジア・オープン・リサーチセンター研究集会「言語研究とデジタルヒューマニティーズ」、2023年3月10日)
- (110) 『『海国図志』版問題続考』(オンライン発表)(東アジア文化交渉学会国際学術大会、南開大学(中国)、2023年5月6日)
- (111) 「『海国図志』版問題新論」(“事件・詞語・図像—中日近代交渉史学術報告会”、復旦大学、2023年7月29日)

- (112) 「日中両語の相互影響と近現代語彙の形成」(講演)(元智大学(台湾)、2023年11月6日)
- (113) 「幕末英語学習書4点の依拠資料と著作者—『英米対話捷徑』『和英商賈対話集』『商用通語』『ゑんざりしことば』—」(関西大学東西学術研究所研究例会(言語交渉研究班)「外国語学習の歴史と諸問題」、2023年12月8日)
- (114) 「舶来飲食名称の形成と漢語方言の相互影響—以“啤酒”一詞為中心」(“東西味融：近代以来西餐在中国的演变、製作芸術与礼儀生活”学術研討会、復旦大学、2023年12月26日)
- (115) ‘Translation of Western languages and Sino-Japanese linguistic interactions’ (講演)(Nanyang Technological University (シンガポール)、2024年2月6日)
- (116) 「漫談 我が研究の遍歴」(最終講義、大阪大学、2024年2月14日)
- (117) 「西学東漸と日中近現代語彙の形成—課題の発見と考察—」(講演)(北京大学、2024年3月12日)
- (118) 『「カ車」の語史—その起源と展開—』(“漢字文化圏の近代新詞語：材料、概念と翻訳”国際学術研討会、鄭州大学、2024年3月16日)

本小冊子は、『大阪大学大学院人文学研究科紀要』第1巻(2024年)所載の「令和五年度 退職教員略歴・主要業績」に記した内容にそこでは紙数の制約上省いた情報を加えたものです。